

第1回

社会を彫る子どもたち——
高度経済成長期を中心に
2025.9.27 (SAT)
13:00-16:30

 弘前大学文京町キャンパス
50周年記念館 岩木ホール

町村 悠香

(町田市立国際版画美術館・学芸員／
成城大学グローバル研究センター・客員研究員)

笠原 良太

(実践女子大学生活科学部・講師)

高原 太一

(成城大学グローバル研究センター・研究員)

角尾 宣信

(和光大学表現学部・准教授)ほか



お申し込みはこちら>

第2回

版と記憶——大地のあいだ
を伝播していく船旅
2025.12.13 (SAT)
13:00～16:30

 弘前大学文京町キャンパス教
育学部校舎1階 大教室

福島 裕敏

(弘前大学教育学部・教授)

鈴木 唯司

(公益財団法人鷹揚郷理事長)

藤田 敏幸

(元つがる市立車力小学校校長)

井上 則秋

(平川市立金田小学校教諭)

梶谷 伸夫

(八戸市公民館館長／
企画事業アドバイザー)ほか



お申し込みはこちら>

第3回

種のゆくえ——教育版画的
これまでとこれから
2026.2.21 (SAT)
13:00～16:30

 弘前大学文京町キャンパス
50周年記念館 岩木ホール

高橋 麻衣

(八戸市美術館・学芸員)

江戸 邦之

(五所川原市教育委員会社会教育課・主査)

奥脇 嵩大

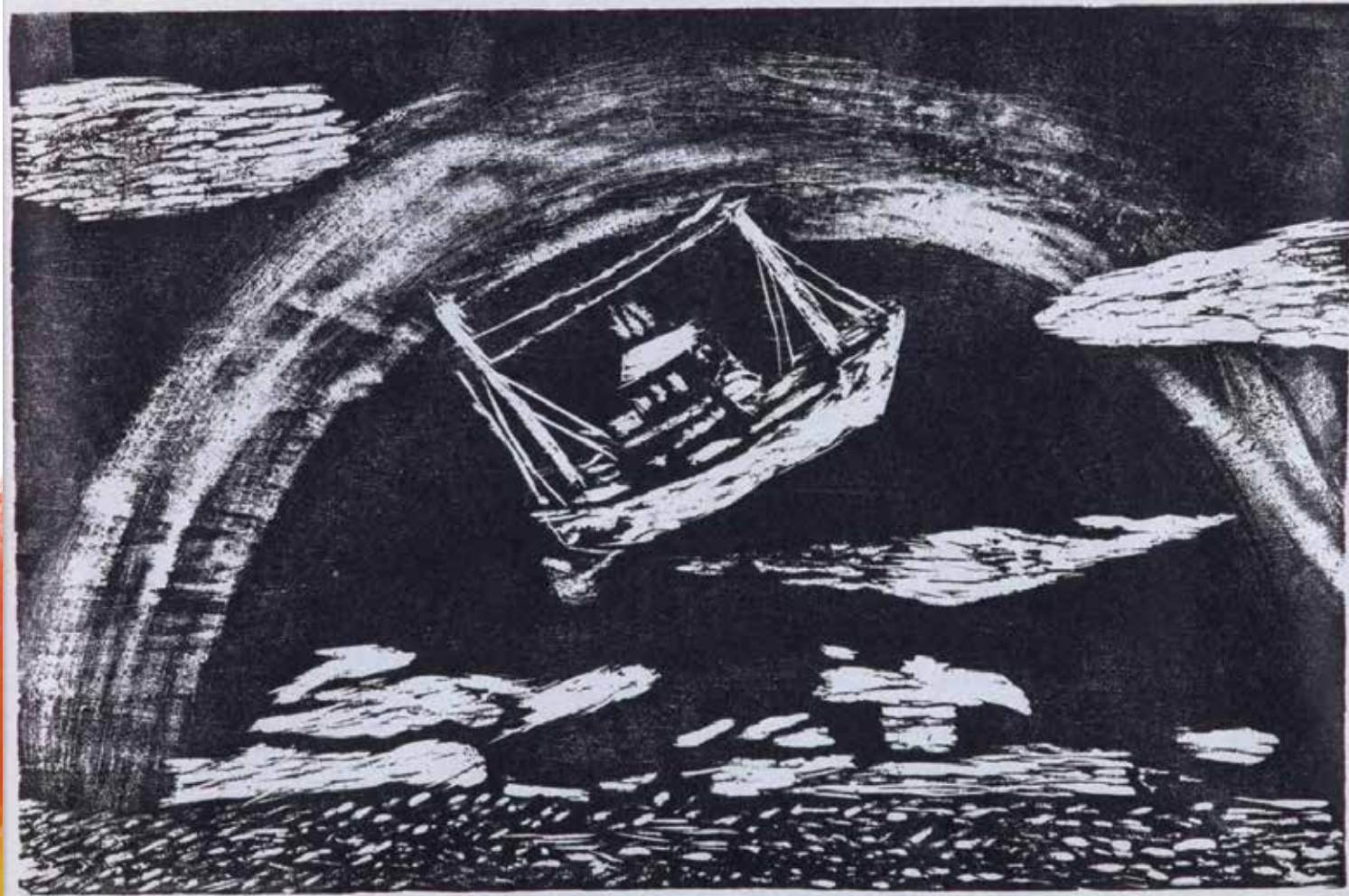
(青森県立美術館・学芸員)

作間 亮哉

(那須歴史探訪館・学芸員)ほか



お申し込みはこちら>



八戸市立湊中学校養護学級生徒《虹の上をとぶ船 虹にむかって船はとび立った》1973、八戸市美術館蔵

この企画は、令和7年度大学コンソーシアム学都ひろさき活性化支援事業費補助金対象事業です。

《教育版画 連続3回セミナー》 虹の上をとんだ船の 「それから」の軌跡

本セミナーでは、〈わたしたち〉の生に形を与えようとした／する子どもの姿を「ウェルビーイング」という言葉に託して語りあいます。自立共生性と領域横断性、そして過去の出来事の連続線上に新しい線を加えながら軌跡を描きだそうとする動きを大切にします。1974年、八戸市立湊中学校養護学級の生徒によって共同版画『虹の上をとんだ船はどんなことになったか』は制作されました。それは、前年から同校生徒が着手していた『虹の上をとぶ船』シリーズに描かれた理想に向かって飛び立った船が、公害、戦争、原子力などの現実と直面する物語でした。50年後の今、そこにはどのような問いが待ち受けているのでしょうか。

全回無料

対面とオンラインで開催します。

参加者が定員を越えた場合は、先着順に受付を締め切ります。

詳細につきましては、

「弘前大学教育学部附属次世代ウェルビーイングセンターHP>お知らせ&イベント」
をご覧ください。

お問い合わせ先：弘前大学教育学部美術教育講座内 佐藤絵里子研究室
eriko0220@hirosaki-u.ac.jp
0172-39-3384(研究室)

後援：成城大学グローバル研究センター

